


## 1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」







| 項目   | 前回（3年7月判断）  | 今回（3年10月判断）  | 前回比較  |
|------|---|--|---|
| 総括判断 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある |  |

（注）3年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、持ち直しに向けた動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊など観光面が厳しい状況にあるなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械を中心に、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

## 【各項目の判断】

| 項目   | 前回（3年7月判断）                               | 今回（3年10月判断）                              | 前回比較  |
|------|--|--|---|
| 個人消費 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている |  |
| 生産活動 | 持ち直しつつある                                 | 緩やかに持ち直している                              |  |
| 雇用情勢 | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある        | 新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある     |  |
| 設備投資 | 3年度は増加見込み                                | 3年度は増加見込み                                |  |
| 企業収益 | 3年度は増益見込み                                | 3年度は増益見込み                                |  |
| 住宅建設 | 弱含んでいる                                   | 持ち直しつつある                                 |  |

## 【先行き】

先行きについては、感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向やサプライチェーンを通じた影響による下振れリスクに十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、食料品が堅調であることや客足に戻りがみられることから緩やかに持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺の店舗を中心に弱い動きとなっている。ドラッグストア販売は、衛生用品や食料品が堅調である。ホームセンター販売は、DIY関連商品や園芸用品が堅調である。家電大型専門店販売は、高機能商品の需要が高く堅調である。乗用車の新車販売は、供給面の影響により、弱い動きとなっている。宿泊は、厳しい状況にあるものの、足下では持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 感染症が急速に拡大したことや8月の大雨も重なり、客足が減少し売上が大幅に減少した。感染症の落ち着きがみられてきた9月下旬以降は徐々に客足が戻ってきている。(百貨店・スーパー)
- 感染症が急拡大し営業時間を短縮したため、売上・来店客数が減少。飲食料品はまとめ買いの傾向がみられ、衣料品は外出自粛の影響から低調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 感染症の影響による外出自粛や在宅勤務で、オフィス街や観光地周辺の店舗の来店客数が減少。また、気温が上がらず冷製麺などの季節商品が大きく前年を下回った。(コンビニエンスストア)
- 気温が上がらずエアコンなどの季節商品の売れ行きが悪かった。前年ほどではないものの巣ごもり需要は底堅く、より高機能な商品が好調で、客単価は高い傾向である。(家電大型専門店)
- 受注は好調であるが、半導体不足及び東南アジアの工場稼働停止の影響で販売台数につながらない状況が続いている。(自動車販売店)
- まん延防止等重点措置の適用を受け、予約のキャンセルが相次ぎ宿泊稼働率は大きく落ち込んだ。県の宿泊助成事業が再開され、予約が増えつつある。(宿泊施設業界団体)
- 酒類の提供が解禁されたものの、時短要請は継続中だったため、街中の人通りが少なく、店を開けても客が来ない状況であり、7割の店は休業していた。(飲食業界団体)

### ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、車載向け部品を中心に好調に推移している。化学・石油製品は、自動車向け製品を中心に堅調である。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が好調である。輸送機械は、持ち直しているものの一部に弱さがみられる。

- 感染症の影響を受け、飲食店向け焼酎が減少しているものの、量販店などで紙パックを中心とした家庭向け需要が堅調であることなどから、全体的にはわずかに減少している程度である。(食料品等)
- 車載向け半導体需要の増加に加え、世界的な半導体不足を受けた家電・通信機器を含む全般的な分野での受注増加により、引き続きフル生産の状態。(電子部品・デバイス)
- 自動車向けや日用品向けの製品について、国内及び海外ともに需要は堅調であり、生産量はすでにコロナ禍前までに回復。9～10月も同水準で推移する見込み。(化学・石油製品)
- 5Gの本格普及でモバイル機器やデータセンター向け半導体の需要が増加している中、パソコン向けや次世代車向けも伸びており、供給が追い付かない半導体メーカーが生産増強のため、半導体製造装置を購入する動きが活発化。(汎用・生産用・業務用機械)
- 7月には通常の生産台数まで回復してきていたところ、8月の中旬以降、東南アジアを中心に感染症が拡大し、海外部品の供給が完全にストップした状況。半導体にとどまらず部品全般に係る供給に影響が生じたことから、乗用車全車種の生産に影響が出ている。(輸送機械)

### ■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

感染症の影響がみられるなか、有効求人倍率は緩やかに上昇している。新規求人数は医療・福祉、職業紹介・労働者派遣業、建設業を中心に前年を上回っている。

- 新規求人数について、従来から人手不足である医療・福祉、建設業といった業種や受注増により人手不足となった電子部品・デバイス・電子回路製造業等の業種と、コロナの影響を受け続けている飲食業等の業種間で二極化が続いている。(公的機関)
- 増産が続いているなか、契約社員・派遣社員を募集しているが応募が少ない。派遣については条件を見直したことから紹介件数は増加しているが、まだ不足している。(輸送用機械器具製造業)

### ■ 設備投資 「3年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年7-9月期

- 製造業では、「はん用機械器具製造業」などで減少見込みとなっているものの、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「宿泊業、飲食サービス業」などで減少見込みとなっているものの、「運輸業、郵便業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- スマートフォン向け電子部品の増産に向けた新工場増設に伴う開発ラインの整備や生産設備拡充。(情報通信機械器具製造業)
- 現行船の老朽化に伴い新船を建造。(運輸業、郵便業)

### ■ 企業収益 「3年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年7-9月期

- 製造業では、「情報通信機械器具製造業」などで増益見込みとなっているものの、「生産用機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「農林水産業」などで増益見込みとなっているものの、「宿泊業、飲食サービス業」などで黒字転化見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。

### ■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、前期(3年4-6月期)に比べ、全産業では「下降」超幅が縮小している。なお、先行きをみると、3年10-12月期は「上昇」超に転じ、4年1-3月期は「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

### ■ 住宅建設 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数をみると、前年を上回っている。

### ■ 公共事業

- 公共工事請負金額(3年4-9月累計)をみると、前年度を上回っている。

### ■ 農業

- 野菜の農協共販量をみると、7月は前年を上回り、8月は前年を下回っている。野菜の販売単価をみると、7月、8月は前年を下回っている。
- 牛のと畜頭数をみると、7月、8月は前年を下回っている。牛の枝肉卸売価格をみると、7月、8月は前年を上回っている。
- 豚のと畜頭数をみると、7月は前年を下回り、8月は前年を上回っている。豚の枝肉卸売価格をみると、7月、8月は前年を下回っている。

### ■ 倒産

- 企業倒産(3年7-9月期)は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

## 3. 各県の総括判断

|      | 前回(3年7月判断)  | 今回(3年10月判断)   | 前回比較 | 総括判断の要点   |
|------|---|---|------|---|
| 熊本県  | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある                    | ➡    | 個人消費は、持ち直しに向けた動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊など観光面が厳しい状況にあるなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスを中心に、持ち直している。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。        |
| 大分県  | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている                         | ➡    | 個人消費は、新型コロナウイルス感染症や天候不順の影響により、観光関連が厳しい状況となっているほか、百貨店・スーパー販売も低調となっており、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。生産活動は、緩やかに持ち直しているほか、雇用情勢は、感染症の影響がみられるなか、横ばいの状況にある。                         |
| 宮崎県  | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているが、足下では、改善のテンポが早まる兆しがみられる | ➡    | 個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているが、足下では、百貨店・スーパーなどで客足が戻りつつあるなど、改善のテンポが早まる兆しがみられる。生産活動は、化学工業やその他工業を中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 |
| 鹿児島県 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある         | 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある                                 | ➡    | 個人消費は、感染症の影響により宿泊・観光面で厳しい状況にあるなか、引き続き巣ごもり需要による動きがみられることなどから、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。                                      |